

## 平成26年度 第1回小城市協働によるまちづくり検討委員会 議事録

- 開催日時 : 平成26年12月25日(木) 午後2時～4時
- 開催場所 : 小城市役所 西館 2階 大会議室
- 出席委員 : 五十嵐委員、安德委員、今村委員、原口委員、眞子委員、秋丸委員、山田委員、横山委員、川頭委員、木下委員、東島委員、光岡委員、原委員、大野委員、大坪委員、西岡委員、中島委員、石橋委員、古川委員、光石委員
- 事務局 : 市長、副市長  
(総務部 企画課) 大橋企画課長、池田市民協働推進係長、浦部主査
- 関係課職員出席者数 : 7名
- 傍聴者数 : 1名

### 《 議 事 録 》

#### 1. 開 会

○大橋企画課長あいさつ

#### 2. 委員の委嘱(委嘱状の交付)

〈 市長から委員へ委嘱状交付 〉

#### 3. 市長あいさつ

○江里口市長

皆さんこんにちは。市長の江里口でございます。

きょうは、平成26年度の第1回目の小城市協働によるまちづくり検討委員会ということで、年末の慌ただしい中に、本当にお忙しい中に御出席をいただきまして、本当にありがとうございました。

実は、私どもも明日が一応御用納めということで、非常に今年は年末年始の休みというか、土日の関係で期間が非常に長くあります。明日が御用納めで、27日から、この年末のお休みに入って、明けは5日からということになりますので、余り休むと、体が何か調子が悪くな

るような感じがするんじゃないかなというふうに思っております。

今日は、第1回目の小城市協働によるまちづくり検討委員会委員ということで、今、五十嵐先生に代表でこの委嘱状を受け取ってもらいましたけれども、また、皆さん方には2年間いろいろお世話になるかと思いますが、どうかよろしく願い申し上げたいと思います。

この協働によるまちづくりですけれども、私も前の経緯、経過を振り返ってみますと、ちょうど平成17年に小城市が合併をいたしまして、来年の3月で丸10年になるわけですけれども、合併をして、ちょうど市の総合計画を策定し、それが大体平成19年4月に策定されました。その中に実は、共につくるまちづくりということの項目が入っております、その「共につくる」というのはどういうことかと言いますと、例えば人権社会とか、それからまた男女共同参画とか、それからまたコミュニティ活動を本当に活発にやっっていこうということ、そして、市民と行政の協働活動ということ、そして、自立した行政経営というそういうふうな項目がこの「共につくる」という部分の中で総合計画ができ上がったわけですけれども、それ以降、実は担当課のほうで、合併して4つの町が1つになって、それぞれの歴史、文化、いろいろあるわけですけれども、やはり考え方もいろんな形で違う部分があると。ですから、そういった意味でも、例えば小学校の校区别ぐらいには、まちづくり市民会議みたいなものを立ち上げてやったらどがんねという話を実はした経緯、経過があるわけなんですけれども、その当時は、例えば男女共同参画をどういう形で持っていくのか、あるいはこの協働という視点、それを何で協働なのかということから含めて、しっかりとそういうふうな意識を醸成しないと、あくまでも行政のほうから、そがんとぼつくらんですかと言われても、なかなかこれが先までずっと活動を続けられるというのが非常にクエスチョンな部分があったものですから、まずは協働というそういった啓発、それから市民の皆さん方とともに考えながらやっていきましょうよということ話をした経緯、経過があるわけなんです。

あれから合併して、もう10年目に今入っていますけれども、もう時代がまさに協働のそういうふうな時代に入ってきている、あるいは男女共同参画の時代に入ってきている。ですから、今これからは、小城市として、それぞれの本当にまちづくりに関してのいろんな協議会、地域の皆さんたちが協働という意識の中で、じゃ、どういったことを組み立ててやっていながら行政のほうと協働でやっていくのかということ踏まえて考えていく、そしてそれを実行に移す時期にまさに来ているんじゃないかなというふうに思っております。

ですから、そういった意味でも今日の検討会議、第1回目ですけれども、これから協働と

いう観点から、地域にどういうふうを組み立てて持っていくのかということを含めて、いろんな立場の皆さん方でございますので、いろいろ意見を出していただきながら、そしてそれぞれにまちづくりの協議会といいますか、そういったもののあり方について御意見をいただければなというふうに思っています。

まさに先ほど申し上げましたけれども、これからは、それを実行に移す時期に来ているというふうに思っていますので、そのためのこの検討委員会ということで私も思っておりますので、どうかよろしく願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。お世話になります。

#### 4. 自己紹介

〈 委員・事務局 自己紹介 〉

#### 5. 委員長・副委員長選出

委員長…事務局提案、副委員長…委員長指名で決定

[ 委員長:五十嵐委員 副委員長:今村委員 ]

#### 6. 委員長・副委員長あいさつ

○五十嵐委員長

どうも皆さん初めまして。佐賀大学の五十嵐でございます。コミュニティとかそういったものが多少専門ではございますが、本来、村づくりの研究のほうをしております、まちづくりのほう専門ということではございません。佐賀市のほうで、ここ5年ほど地域コミュニティづくりの委員会の委員長として取りまとめ役を行ってまいりました。

少子高齢化が進む中で、地域の活力をどうやって引き出していくか、あるいは市民たちがどういうふうにして行政と連携しながら地域づくりを行っていくのかということで、さまざまな方法が全国的に試みられております。

そんな中で、私、小城市について深く状況を知っているわけではございません。ふだんは佐賀市に住んでおりますので。ただ、新しい住宅地も多くて、古くからの住民と新しく移ってこられた方々、そういった方々が混在する地域であろうと、そういう理解をしております。

委員長職として、甚だ微力ではございますけれども、委員会の取りまとめ等で尽力をした

と思います。どうぞよろしく願いいたします。

### ○今村副委員長

皆さんこんにちは。ただいま副委員長ということで御指名いただきまして、皆さん方から御承認いただきました、小城市区長連絡協議会の会長を仰せつかっております今村力哉と申します。私は三日月に住んでおります。私も生まれ育ってずっとこの小城市一本じゃなくて、三日月のほうに家を構えまして三十四、五年になります。その後ずっとサラリーマン生活しております、64のときにリタイヤして、この区長連絡協議会の会長ということで、いろいろと地域のお世話をさせていただいて、さらにその後、こういうような会長職とかという役目を仰せつかっておるところでございます。

ただ、私も小城市の隅々までいろんなことを知っているかということ、そうでもございません。ですから、皆さんのそれぞれの立場の方の御意見を拝聴させていただきながら、委員長の補佐ができればなというように考えておるところでございます。

何分にも不慣れでございますけれども、皆さん方の御協力をいただきまして、大過なくこの任務を務めさせていただきたいなということでお願いを申し上げまして、御挨拶にかえさせていただきます。よろしく願いいたします。

## 7. 議 事

### ○事務局(大橋)

ありがとうございます。

それでは、議事に入るわけですが、その前に、この検討委員会の公開について御説明をしたいと思います。

小城市のほうで定めております審議会等の会議の公開に関する指針というものがあまして、そちらのほうにおいて、審議会等の会議は原則公開するということになっております。したがいまして、この検討委員会の内容についても公開により行いたいと思っております。

また、会議の内容、結果の公開についてでございますが、こちらのほうは、今日はいっぱいマイクがあるかと思いますが、議事録を作成して委員の皆様を確認をしていただいた上で、ホームページで公開をしたいと考えております。

また、会議の審議の風景といいますか、こちらについても様子を写真撮影をさせていただきたいと思っております。こちらのほうも概略にはなるかと思いますが、市報、ホームページ等で

掲載をさせていただきたいと思います。御了解いただきたいと思います。

それでは、議事に入りたいと思います。

会議は委員長が議長となるということになっております。これから先は五十嵐委員長にお願いをいたします。よろしくお願いいたします。

#### ○五十嵐委員長

それでは、議事に入らせていただきます。

皆様方の忌憚のない御発言をお願いいたします。

それと、議事録を作成する都合上、発言をされる場合にはお名前を名乗った上で発言をお願いしたいと思います。しばらくはなれるまでとは思いますが、よろしくお願いいたします。

それでは、議事進行に従ってまいります。まず議事の1番目、小城市の協働によるまちづくり施策についてという議事でございます。まずは事務局から御説明をお願いいたします。

#### ○事務局(池田)                      事務局説明【資料3】

それでは、事務局のほうから説明をしたいと思います。

資料3になりますけれども、パワーポイントの資料になります。小城市の協働によるまちづくりの施策についてということで御説明をします。

その前に、まちづくりのベースになる小城市の人口について見てみたいと思います。スライド下のほうですね、2ページ目になりますけれども、小城市年齢別人口推移を上げております。こちらのほうは、国勢調査に基づくものと、国立社会保障・人口問題研究所調べによるものです。青の線が総数です。小城市全体の人口です。赤の部分が年少人口で、0歳から14歳の人口です。緑の線が生産年齢人口、15歳から64歳までです。紫の部分が、老年人口で、65歳以上の人口ということになります。

合併当時、平成17年には人口が4万5,852人でしたけれども、平成22年ですね、2010年には4万5,133人ということで、25年後の2040年には、今の人口から比べて82%程度に減少するという予測が立てられております。それに伴って、働く世代の人口ですね、生産年齢人口、緑色のところになりますけれども、それが2040年には71%ぐらいになってしまうということと、子供の数についても今の64%程度になってしまうということが推計をされております。こういうふうに生産年齢人口、年少人口は減少をしていきますけれども、真ん中の紫の部分ですけれども、老年人口、65歳以上というのは増加をしていく傾向になっております。

次のページですけれども、スライドの3枚目ですね、こちらのほうは年齢別の人口割合をパーセントで示しております。こちらのほうに見てとれるのが、老年人口が増えるということをお話をしましたけれども、この紫のラインですね、老年人口は2015年、平成27年には25.9%ということで、4人に1人が65歳以上ということですが、2035年には3人に1人が65歳以上になるということが推計をされております。小城市のほうでもこういった形で高齢化社会が進んでいるということが推測をされます。

地区別の人口を見てみたいと思います。スライドの4枚目になりますけれども、こちらのほうは小学校区別の年齢別人口割合を載せております。こちらのほうは、平成26年3月末の住民基本台帳に基づくものです。こちらのほう、パーセントで書いておりますけれども、小城市の人口ですね、26年の3月末現在で計の4万6,021人です。その中で、年少人口が6,782人の14.7%、生産年齢人口、15歳から64歳までが2万8,031人の60.9%、老年人口、65歳以上が1万1,208人の24.4%ということになっております。小城市全体の割合を見ますとこういうふうになっておりますけれども、地区別で見ますと、三里地区、ちょっと見てもらいたいと思いますけれども、こちらのほうは子供の数というのが少なく、年少人口の割合が9.9%、老年人口、65歳以上が32.3%ということで、老年人口が32%を超えているということです。それと対照的に、三日月校区では年少人口が18%、老年人口が19.3%ということで、それぞれ地区によって課題が違うのではないかと推測をされると思います。

その次のページになりますけれども、総合計画の中での協働の位置づけがどうなっているのかということですが、現在の計画は平成19年度から平成28年度までの10カ年の計画ですが、目指す将来像を「薫風新都～みんなでつくる・笑顔あふれる小城市～」と定めています。

薫風新都という将来像は、そこで暮らしたくなる、働きたくなる、訪れたくなるような独自の暮らし、賑わいといったまちのスタイルをつくり上げ、地域外にもそれをアピールすることができるようなまちを表現しております。

サブタイトルといいますか、「みんなでつくる」というのは、市民一人ひとりがまちづくりの主役になった市民本位のまちをつくり上げていくことをあらわしています。「笑顔あふれる」というのは、全ての人が健康で、安心して快適に過ごせるようなまちづくりをイメージしております。

目指す将来像を踏まえて、基本目標を「「和」で織りなす美しいまち」と定めています。

市民一人ひとりがお互いに相手を大切に、協力し合う関係にあること、また、人と自然など全ての調和がとれているという意味を持ちます。また、新たなまちづくりにおいて、全ての分野にわたって基本とする理念を4つ定めておりますけれども、「共生と自立」、「交流と連携」、「個性と魅力」、「参画と協働」というまちづくりの基本理念を定めております。この中の「参画と協働」では、市民と行政が同じ目標に向かって協力して取り組む「市民主体のまちづくり」を進めることを目指しています。

その下のほう、ページ番号6番ですけれども、後期基本計画ですね。平成24年度から28年度までの5カ年のまちづくりに関する施策の取り組みについて示すものですが、その中の重点施策、まちづくりのビジョンの実現に向けて、基本計画の中に成果を重点的に向上させる施策を言いますけれども、6つあります。その中の一つに、市民と行政との協働体制の確立が上げられています。その基本事業として、こちらのほうに1から4番まで上げておりますけれども、情報提供・広報活動の充実、2番目に計画策定・政策形成過程への参画による協働の推進、3番目にCSO等の育成、4番目に協働のルール・仕組みづくりを上げております。

さまざまな市民ニーズに対応し、多様な主体による住みよいまちづくりを進めていくために、市民と行政との共通認識のもと双方の新しい関係の構築を進めながら、協働体制を確立していくことを目的としております。

また、4番目の協働のルール・仕組みづくりですが、協働によるまちづくりを総合的に進めるために協働のルール・仕組みづくりが必要ですので、この検討委員会の中で今後の協働によるまちづくりを進めるための仕組みづくりに向けて御検討をいただきたいと思います。

次のページ、スライド7番目になりますけれども、小城市のほうでは平成20年度に市民協働を進めるための行動指針を作成しております。その中で、小城市の目指す協働の姿として、市民一人ひとりが何か地域のことにかかわっている、市民一人ひとりが必要とされているまちを目指す協働の姿として上げられています。市民の皆さんに協働の必要性が理解され、みんなで力を合わせて取り組むことで住みやすい地域づくりが実現できるのではないのでしょうか。

その下のほうですけれども、スライドの番号8番です。小城市の今までの協働における取り組みについてです。

平成17年3月の合併後、現在まで、名称は変わっておりますけれども、協働によるまちづ

くり事業に対して補助金を交付しております。

平成19年度には、先ほど説明しましたけれども、市民協働を進めるための指針を作成するために、市民の皆さんによる協働の指針策定懇話会を設置し、平成20年3月に指針を作成しております。

平成21年3月には、市民団体のほうが佐賀県の補助を受けられ、市民団体同士、または市民団体と行政を結ぶ中間支援組織として、小城公民館の一角に民設民営になりますけれども、CSO市民活動センターようこそが開館しています。

平成23年度には、市民協働の意義及び必要性、CSOの理解を職員に促し、市民提案の受け入れ等に対応するため、市民協働推進員を庁内各係に1名配置をしております。また、同年から佐賀県CSO提案型協働創出事業に参画しており、各種団体から、私たちならもっと質の高い公共サービス、こんなことができるという提案を受け、市と団体と協議、話し合いをしながら事業を進めています。今年度は18件の提案をいただいております。

そして、昨年度から、これまで志縁団体、志すと書いて志・縁結びの縁と書き志縁と言いますけれども、NPO・まちづくり団体への支援に力を注いできましたけれども、次のページ、ページ番号9番にも図で示しておりますけれども、社会情勢が大きく変化している中で、小城市の人口推移でも説明をしましたが、小城市でも少子高齢化が進んでおり、20年、30年前には余り言われていなかったと思いますけれども、子育てとか防災等の課題がふえてきています。個人の価値観、生活様式も変わってきています。その中で、地域力、コミュニティに目を向けていく必要があるのではないかとということで、庁内の関係各課職員による地域における協働推進体制の確立に向けた勉強会を昨年度設置しまして、研修会、視察等を実施してきました。

今年度、さらに、その下のほう、スライドの10枚目になりますけれども、庁内全体、または市民の皆さんで今後の小城市のまちづくりを考えていただくということで、庁内体制ですね、スライドの10枚目の左側のほうになりますけれども、上のほう、紫色のほうですね、小城市市民協働推進本部を本部長を市長としまして、副本部長を副市長、委員を各部長ということで、市民協働によるまちづくり全般について協議をする場として位置づけております。

その下のほうに、水色の部分ですけれども、小城市地域との協働体制庁内検討委員会ということで、こちらは委員長を総務部長、委員を各課の課長ということで、この中で協働によるまちづくりの推進に関すること、地域コミュニティの施策の方向性に関することを検討し



ていきます。その庁内の検討委員会の中に、作業部会を設置しております。こちらのほうは部長を企画課長ということで、平成25年度、昨年度ですね、地域における協働推進体制の確立に向けた勉強会のメンバーを主としまして、協働に特に関係の深い課の係長クラスを作業部会ということで置いておまして、その中で庁内の体制について協議をしていきたいと思っております。

こちら、右のほうになりますけれども、小城市協働によるまちづくり検討委員会、本日お集まりの委員会ですけれども、その中で掌握事務としまして、地域におけるまちづくりの現状及び課題に関すること、地域コミュニティ組織の位置づけ、役割及び体制に関すること、地域と行政との適切な役割分担のあり方に関することということで掌握事務を定めております。こちらのオレンジの部分ですけれども、さまざまな小城市内の各種団体の方にお集まりいただいて、今後の小城市のまちづくりについて検討していただきたいと思っております。

ここまで説明をしてきましたけれども、では、実際にどういうことを検討していくのだろうというふうに疑問に思われている方もいらっしゃると思いますので、その次のページになりますけれども、協働によるまちづくりの最近の傾向ということでちょっと御説明をしたいと思えます。

地域を取り巻く現状と課題ですけれども、助け合いの意識の低下、また地域課題の増加、人間関係の希薄化という現状がある中で、コミュニティ意識も希薄になり、既存の組織ですね、さまざまな団体組織が衰退しているところもあるかと思えます。また、人材不足であったりとか、新旧住民の交流がうまくいかなかったりであったりとか、若年層の皆さんが地域の活動への参加がなかなかしてもらえないとかいう課題が山積みになっているかと思えます。その地域課題の解決の手段として、スライド番号の12番ですが、下のほうになりますけれども、地域自主組織、まちづくり協議会というのが設置されているところが多く見られます。

スライド番号の12番ですけれども、左のほうですね、従来の組織というのが市役所から各種団体にそれぞれ話をしていたというところがあるかと思えます。地域住民の方もそれぞれ、さまざまな団体に所属し活動をされていらっしゃると思います。そういったものを新しい地域として、右のほうになりますけれども、その各種団体が緩やかなネットワークを結んで地域の各団体がメンバーとなって地域課題の解決に向けて連携を図るというようなまちづくり協議会という組織をつくってあるところが多く見られます。その中で、緩やかなネットワー

クを結び地域住民の方も一緒に参画をするという形になるかと思えます。

次のスライドになりますけれども、13枚目ですけれども、そのまちづくり協議会の中で、先ほど地域課題、それぞれの校区別でも人口推移を見てもらってもわかるかと思えますけれども、高齢化であったりとか子育てであったりとか、さまざまな課題があると思えます。その課題を自分たちでできることはこんなことができるじゃないだろうかというようなことを考えてもらって、まちづくり計画というか、プランですね、構想を自分たちの手で考えてもらって実践をしていく、健康福祉であるとか、環境美化であるとか、子育てであるとか、安全安心であるとか、その地域の課題に沿った計画を立て、それを実践していくというような組織になるかと思えます。

地域では、先ほどからお話をしていますけれども、自治会を初めとして各種団体が「住みよいまち」を目指して、それぞれに活動を行ってもらっているかと思えます。今よくあるまちづくり協議会というのは、自治会とか各種団体の方が連携して、地域のまちづくりについて皆さんで考え、地域の課題に取り組んでいくというような組織だと思えます。まちづくり協議会も協働によるまちづくりを進めていく上での方策であると思えますけれども、どこかの市町で実施されているから小城市でもということではなくて、小城市に合ったまちづくりのあり方を検討していただきたいと思いますと思っております。

後ろのほうには、ちょっと見づらかったと思えますので、なぜ協働が必要なのかということと、推進体制の図を大きくしてつけておりますので、ご覧ください。

説明は以上です。

### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。説明おわかりになったでしょうか。まちづくりを行うこの委員会が何をやるかということで、まず現状の人口動態等を前提にして、少子高齢化が進んでいるという、これは全国共通ですけれども、その中でも小城市を事例にすれば、高齢化率、高齢化率の高いところとまだそうでもないところ、地域によって当然差があると、そんな中で共通する問題として、まちづくりを担ういろんな団体が今活動しておられます。今日はそういった活動をされておられる団体のほうから代表という形で委員に、ここにおられるわけです。それぞれの団体の活動、順調にいつているというところもあるでしょうし、いろんな問題を抱えているというところもあるかと思えます。そういったものを一度みんなで出し合って、よりよいまちづくりを進める上でどんなふうそれぞれの活動団体同士がネット

ワークでつながるか、あるいは協力し合うかと。その一つのイメージが、他市で行われているようなまちづくり協議会のようなやり方という一例を御紹介いただいたということでございます。

今の御説明につきまして、内容について、まず質問等、事実確認等からお願いしたいと思っております。

まず、この背景となる人口動態のところ、何か御質問、御意見ございますか。日本全体が少子高齢化していて、じゃ、小城市の場合はどうかということでございます。この人口動態、背景よろしいですか。要は予測ですね、これはシミュレーションなんですけど、いろんな組織がこういうデータを出してきますが、おおむね大体予想どおりになるというイメージで捉えられているものです。当然社会の状況の変化によって、流出がふえたり流入がふえたりすることもあるでしょう。あくまでも現段階における人口データをもとにして描いた予測でございます。この人口統計データ、よろしいでしょうか。はい、どうぞ。

#### ○眞子委員

人口動態はわかりますけれども、これの世帯の動きというのはわかりますか。世帯の数。

#### ○事務局(池田)

世帯数ということでよろしかったでしょうか。世帯数は、今、手元にある資料が平成17年の3月末と26年の3月末とあるんですけども、平成17年の3月末で世帯数が1万4,341、平成26年の3月末が1万5,599ということで世帯数はふえているということです。ということは核家族化が進んでいるということになるかと思えます。

#### ○五十嵐委員長

次回の委員会まで間に合うかどうかわかりませんが、恐らく考える材料として、世帯のいわば中身のデータが多分必要になるだろうと思えます。例えば、独居世帯、独居老人世帯がどれくらいいるか、夫婦だけの2人世帯がどれだけいるか、そういった世帯数の細かな動向、それは当然地域別に見る必要があって、高齢化率が比較的高い三里地区ですかね、例えば、こういったところでは、予想するとすれば独居世帯や夫婦2人だけの世帯等が多い可能性もあります。そういったことはデータとして必要であれば事務局のほうで用意をいたします。そういうデータ準備しましょうか。次回に間に合うかどうかわかりませんが、一応事務局のほうで準備をお願いします。

#### ○事務局(池田)

はい、準備をしたいと思います。

#### ○五十嵐委員長

ほかに、この人口のところよろしいでしょうか。

それでは、小城市の協働のまちづくりに関する現在までの取り組み、あるいはこの委員会でどういったことを審議するかということにつきまして、お手元の資料の2枚目ですね、右下に⑤と打ってあるところからの部分です。総合計画における位置づけ、あるいは具体的な行動指針の策定、そして協働のまちづくりの今までの歩み、そしてこれからやろうとしていること、こういったことについての今現段階でのいわばイメージ資料ということになります。この内容について、御質問、御意見等をいただきたいと思います。どこでも何でも結構です。発言される方は、お名前を言った上で発言をお願いしたいと思います。どこからでも結構です。はい、どうぞ。

#### ○川頭委員

済みません、先ほどの人口のところでもう1つお願いしたいことがあるんですけども、小城市PTA連絡協議会の川頭でございます。

4ページ目なんですけれども、市町村ごとの人口が大きく年代分けて示されておりますけれども、三日月の事例をお話になっていました。三日月の場合でも、三日月の中では、もう限界集落を迎えているようなところ、子供が1人の集落もあります。片や数百人規模の集落もあるので、三日月の中でも随分温度差が大きいわけですね。そのときにこの切り方がまちづくりをする上で大切なこの分け方の人口のグラフかなというのと、どうもそうではないという感覚があるんです。何か、じゃ、どうすればいいかというのはないんですけども。そのときに産業別ですね、農業に従事している。集落でもいいんですけど、小城市のように商店街とか、牛津のように商店街が多いところはどうなのか、農村が多いところではどうなのかというようなライフスタイル別の人口の分布ですとか、産業別の従事者の分布ですとか、そういったデータもあわせて御用意いただければ助かります。

#### ○五十嵐委員長

まず、これは校区単位なので、校区で分けてしまってもう少し実態とちょっとイメージが違うということがございますので、例えば、自治会単位のデータはないんですね。

#### ○事務局(池田)

行政区別、自治会単位はあります。

**○五十嵐委員長**

ありますよね。そのデータは次回準備いたします。可能であれば、産業別のデータ、それは恐らく校区単位では出てこない、行政区単位でも多分出ないですよ、産業別は。統計のとり方が違うので、多分校区とか自治会単位では、行政区単位では多分出てこないと思いますので。

**○事務局(池田)**

そうです。国勢調査のデータになるかと思えますけれども、ちょっと市でしかわからないかもわからないです。調べます。

**○五十嵐委員長**

一応こちらで、事務局のほうで、どの程度まで出せるか検討させていただきます。ありがとうございます。はい、どうぞ。

**○大坪委員**

公募委員の牛津まちづくり協議会の大坪と申します。

先ほどの分のデータに追加で、私、まち協のほかにも、業務上、社協のほうで地域担当もしているんですけど、小城市の場合、180行政区あると思います。旧町エリアで行政区別の、先ほど眞子さんも言われたような形で世帯数、人口、高齢化率というのを出していただいたほうが、皆さんで課題というのがちょっと見えてくるかなと思いますので、そういったデータも一緒に出していただきたいなと思います。

**○五十嵐委員長**

行政区ごとのもう少し細かなデータを準備してくださいということです。

**○事務局(池田)**

はい、わかりました。

**○五十嵐委員長**

ほかによろしいですか、人口のところ。

**○石橋委員**

公募の石橋ですが、老年人口が65歳以上なんですが、やはり介護のことを考えると75歳が一つの後期高齢になると思いますので、それもあわせていただけたらありがたいです。

**○五十嵐委員長**

はい、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

人口のところ、よろしいですか。事務局への要望ということになりますが、よろしいですか。

次回、委員会を待たずにそろった段階で委員さんに郵便等で郵送しておくという手もございますので、御検討をお願いします。

#### ○事務局(池田)

はい、わかりました。

#### ○五十嵐委員長

それでは、こういった人口にかかわる背景に基づいて協働のまちづくりを進める上での現在の取り組み、あるいはこの委員会が行うべきことにつきまして、御質問、御意見お伺いしたいと思います。はい、どうぞ。

#### ○木下委員

青少年育成市民会議の木下ですが、昔話で大変恐縮ですが、桃太郎が鬼ヶ島に行きまして鬼を退治するわけですが、その戦略に私は学ぶところがないかなというふうな感じもします。これはお話ですけれどもね、というのは、3匹の家来を連れていくわけですね。1匹目はキジ、2匹目は猿、それと犬の3匹を連れて見事、鬼ヶ島の鬼を退治するわけですが、キジは空から情報を集め、その集めた情報を私は賢い猿に分析をさせて、犬に行動をさせるという、そういうことで非常に学ぶ点があるんじゃないかなと思います。それで、先ほどからいろいろ各種団体の方がお見えでございますので、いろいろな情報がこの場でもらえるんだろうというふうに思います。それを分析していただいて、市長さんが先ほど言われましたように、御挨拶の中に、実行に移す時期だというふうなことから、大学の先生たちもおられますから、やっぱりデータがないとどうしても分析のしようがございませんので、精いっぱいデータを出していただくようにしたいと思います。先ほど人口問題のところ、私、三里なんですけれども、先生のおっしゃるとおり、世帯数420で人口が1,500人ですね。私たち、50年前の小学校の児童数が500名いたんです。実際、今、53名しかいないんですね。複式学級が2クラスあっているんです。ですから、例えば、田舎からもちろん若者はまちに出ていくんですが、まちの人はかえって田舎のほうに住みたいという、そういう循環型社会と申しますか、そういう社会も私はつくっていくべきではないだろうかというふうな考えを持っておるんですよね。ですから、市長さんも入っておられますから、その辺の循環型社会と申しますか、そういうものを目指して行って、ある程度定住人口をふやすと申しますか、

そういうことに努力をしていきたいなというふうに思っているところです。

以上です。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。人口がふえているところは、当然ここは都市計画地域設定、当然していますよね。市街化区域等のところはしていない、やっていないんですか、そうですか。住宅がどんどんふえているところは、当然住宅地を造成する、そういう施策を打っていて、新興住宅地がふえています。そうでないところは新しい住宅地もできずに人口が減る一方で。

#### ○木下委員

三里の場合は農振が入っているんです。

#### ○五十嵐委員長

農振地域ですね。農振地域だから、農地転用がなかなか難しいという状況だろうと思います。今言われたように、人口が減っているところについて言えば、Uターンも含めてなるべく人口を戻そうというのは今の国策としての地方創生の施策の大きな目玉にもなっておりますので、人口が減っているところでは、今減っている中でどういう地域づくりが必要かと。その一つとして人口をふやす方法、そういったこともこの場で議論して結構かと思います。ありがとうございます。

#### ○木下委員

いいえ。

#### ○五十嵐委員長

ほかにございますでしょうか。どこでも結構です。

データが必要だということで、この後、協議事項に入りますけれども、市民アンケートをとる予定でございます。どうしましょうか、そちらも先にやりましょうか。(3)、このアンケートのほうを先に一緒にやりましょうか。そのほうが話題が出やすいと思いますので。

ちょっと議事を飛ばしますけれども、(3)市民と行政との協働によるまちづくりに関するアンケートを実施する予定でございますので、そのアンケートについて、事務局から御説明をお願いします。

#### ○事務局(池田)

#### 事務局説明【資料5】

それでは、議事の3番目の市民と行政との協働によるまちづくりに関するアンケートについて御説明をしたいと思います。

資料番号は5番のほうになります。よろしいでしょうか。

このアンケートの目的としまして、市民のまちづくりに関する意識や地域活動への参加状況を把握するためのアンケート調査を実施し、今後の「協働によるまちづくり」の推進に向けた基礎資料として活用するという目的で実施をいたします。

調査対象としまして、小城市内の19歳以上の市民2,000人を対象にしております。男性1,000人、女性1,000人ということで、無作為抽出で実施をしたいと思います。内訳のほうはこちらに書いておりますように、19歳から70歳代まで、それぞれの年代に応じて割り振りをしております。

調査方法としましては、郵送による調査ということで、調査時期が郵送を1月下旬に考えております。回収を2月の中旬までというふうに考えておりまして、ちょっとあれなんですけれども、3月に検討委員会を実施する予定なんですけれども、3月下旬ですね、それまでにある程度の速報ぐらいは出るような形でというふうに考えております。

内容についてですが、その次のページからになりますけれども、アンケート調査票をつけております。まず、アンケートに答える本人さんの性別、年代、小城市に住んで何年ぐらいになるかということと、お住まいの校区ですね、続きまして、問5からは、どういった活動をされていらっしゃるか、コミュニティー活動についてお尋ねしますということで、地域のことに関心がありますかとか、地域活動に参加したことがありますかとか、どういった活動に参加をされたことがありますかというような形で、その内容について聞いております。問13以降が協働の進め方についてということで、よりよいまちづくりを進めていくためには、どういったことが必要かということで設問をしております。問15が自由意見ということで、御意見、御提案がありましたら御記入くださいというような内容でのアンケートを考えております。

以上です。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。この委員会で検討するための材料として、実態に基づいた検討が必要だということで、こういう市民アンケートをとる計画でございます。こういうデータも活用しながら、この委員会で課題の抽出なり問題解決の方法について検討していくということでございます。このアンケート項目の内容について、今、一々ここで御意見をいただく余裕はございませんが、一応ざっと見ていただいて、大体こういう内容でアンケートをとると



ということで御了解いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

また議題戻りますけれども、先ほどの現状、あるいはこの委員会で審議する内容について、何かわからない点ございますでしょうか。あくまでも参考ですけれども、お手元に佐賀市のコミュニティづくりハンドブックというやつがあるかと思いますが、これ私が四、五年かかわったもので、やっと佐賀市のほうでも校区単位でまちづくり協議会等がつくられて、既存の団体等が連携し合いながら新しい試みを行うところがふえてまいりました。あくまでも参考ですので、これ以外、例えば、佐賀県内でも同じような取り組みをしている自治体がほかにもございます。福岡を初めとして、九州各地にもいろんな試みがございます。折に触れて、事務局のほうで必要とあれば他自治体等の事例等も紹介しながら検討していくことになろうかと思えます。いかがでしょうか。御質問、御意見ございますでしょうか。はい、どうぞ、安徳委員。

#### ○安徳委員

西九州大学の安徳と申します。お尋ねでございますが、福祉の視点から見ましたときに、2025年に向けての地域包括ケアシステムづくりというのが市区町村には今、急務というか、そのシステムづくりというものが急がれているかと思えますが、その今回のまちづくりというのは、ケアシステムということも意識しての取り組みということになるのでしょうか。資料を見ていきますと、その意味合いのことがたくさん書かれているものですから、そことの関連性というものをお尋ねしたいのですが。

#### ○五十嵐委員長

事務局、いかがでしょうか。

#### ○事務局(大橋)

それでは、私のほうからお答えをしたいと思います。現在、地域包括ケアシステムというものがどれだけ意識をされているかというのは、その地域全体としては、なかなかまだおぼろげにいていないところだと思います。それを担当の所管課では、そういったものについて今後どうするかという計画なり実践に移していくにはどうしたらいいかというのは持っていると思えますけれども、そういうのがどうしても縦割りでおりにいくという状況があるかと思えます。そうすると、例えば、ある地域では、そういったことよりも子どもの問題のほう、直近の課題であったり、あるいは交通だったり、いろんな課題がその地域地域によって

あるかと思えます。そういったものを地域機能、その実情に合わせて地域の方々が整理をしていただくと。当然それは市の役割というものもございまして、制度をおろしていくということになると市の役割だと思えますが、例えば、その中で地域のいろんなネットワークがどういうふうにもその役割を担っていくのかと、そういう部分をそれぞれで話をしあって、計画を立てて地域ができることは地域でやっていくと、あるいは行政がかかわってやらなければならないところは行政がきちっとやっていくというような、そういった洗い出しをしていくことが本旨だろうと思えますので、福祉サイドだけではないということをお理解いただければと思います。

#### ○安徳委員

わかります、はい。スライドの中の13ページに、まちづくり計画ということでいろいろな課題がありますから、それぞれのテーマということで書かれているので、それは十分理解しているのですが、そのこととリンクがなされている中での意図しているものなのかということをお尋ねしたかったのです。

#### ○事務局(大橋)

当然そういうものは入っていくことになる想定をしております。

#### ○安徳委員

となりますと、先ほどいろいろデータのことのお話が出ましたが、例えば、認知症の方の実態というようなこととか、引きこもりの方がどのくらいの方がおられるのかとかいうようなことも含めて、データがいただければよろしいのかなと思った次第でした。ありがとうございます。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。今、御指摘の問題も含めて、国あるいは市独自のさまざまな施策が当然あります。それと、このまちづくりの委員会で検討することは、十分関連づけて検討しなければいけません。福祉は福祉で、環境は環境で、子供の教育は教育で、いろんなテーマがあって、それが今、国がどう動いている、市がどう動いている、そして、地元がどんなふうに対応している、そんなことを突き合わせながら検討していかなければいけない。これは非常に極めて大きな問題まで実は考慮しなければいけないということです。

今までは、それぞれ自分たちの活動、例えば、PTAならPTAの活動にかかわればよかったんですが、今必要とされているのは、そういった、例えば、PTA活動を円滑に進め

る上でも、ほかの団体と連携したほうがよりうまくいくとか、そういったことが多々ございますので、それぞれの活動の内容について、お互いがまず知り合うことが必要だろうと思っています。その上で、自分たちの活動をより活発にするためには、どういう課題を解決しなければいけないか。共通の課題もあるでしょうし、固有の課題もあるだろうと思います。まずは、現状の分析、現状どういったことが問題になっているかというようなことを、この委員会の場で委員として情報を共有するところから始める。つまり、しばらくは勉強会だと私は認識をしています。そういった位置づけで、しばらく何回までとは言えませんが、勉強しながら検討を重ねていくということで御了解いただければと思います。

ほかに御質問、御意見ございますでしょうか。どうぞ、木下委員さん。

**○木下委員**

今のに関連してなんですけど、さっきちょっと私、聞き忘れたかもわかりませんが、アンケートをとるとのことなんですけれども、全戸なのか、ある程度特殊、二十以上とかに捉えるんですかということです。

**○五十嵐委員長**

案では、19歳以上で2,000件くらいを集めたいと。回収をした結果が2,000くらい、2,000配付。

**○事務局(池田)**

送付が2,000です。

**○五十嵐委員長**

送付が2,000ですね。回収率どれくらいを見込んでいますか。通常、市がやるアンケートは大体50%行くんですか。

**○事務局(池田)**

50%行ければと思っていますけれども。

**○五十嵐委員長**

そうすると、大体19歳以上で無作為で1,000くらいは何とか集めたいということのようです。

**○木下委員**

だけど、アンケートをとるということは市民の意見をここに反映させるということですね。

**○五十嵐委員長**

そうです。

#### ○木下委員

わかりました。

#### ○五十嵐委員長

市民の意見を反映させる方法として、アンケートは当然使いますけれども、最も重要なのは、それぞれの今おられる委員さんは、それぞれのお立場で出席されておられますので、それぞれの活動の組織の中でも、当然議論をしていただくと。例えば、今日この委員会でこんなことを話し合いましたよというようなことを機会を見てそれぞれの活動の団体のほうに持ち帰っていただいて、何か意見ないですかというようなことを多分往復していくことになるだろうと思います。そういった機会をなるべく多くふやして、ここに代表として来られている方々が個人の意見を当然言って結構なんです、それぞれが所属している団体だとか活動の内容も踏まえた上で意見を出していただくと、要は多くの市民の意見をここに反映させているということにつながってくるだろうと思います。

それはまた今後のスケジュールのところ、そういった点についてもまた説明をさせていただきたいと思います。

ほかにございますでしょうか。

#### ○川頭委員

アンケートについて、2点お願いしたいことがあります。これは後で多分、クロス集計をされることになると思うんですけども、その際に、間2の年代なんです、本当に10歳刻みでいいのかというのを1回御検討いただけないかなと。65歳以上が高齢者というふうに切られているにもかかわらず60代となると、どこからが65歳の意見でそれ以下の意見かがわからないと思うんですね。5歳刻みぐらいにすると、見た目がすごく細かくなっちゃうんですけども、後でクロスのときまとめることはできても、後で切ることはできないので——ああそうか、アンケートにきれいに年齢を書けばいいんですけどね、書かないので、後で困ることにならないかなというふうに感じました。

あと、御意見をお聞かせくださいというところで、ちょっとこの内容に関しても、先日、私の妻のところへこういうアンケートが来たんですけども、ようわからんと言うもので、一般の主婦、一般のおじいちゃん、おばあちゃんがわかるように文章を1回ヒアリングなりして、これはこのままでいいと思うんですけども、何かそういう点があれば盛り込んで修

正していただけばなというふうに思います。

以上です。

#### ○木下委員

しかし、回答者の年齢はわかるでしょう。つけてもらうようにするんでしょう、回答した人の年齢。

#### ○五十嵐委員長

実際に御自分で自分の年齢を書く方式ではなくて、この中から選んでいただく形になりますので、今の川頭委員さんの御指摘もなるほどと思ったんですが、65歳だとかそういう意味のある年齢ってやっぱりありますので、このやり方でいいかどうか、ちょっと事務局、再検討をいたしましょう。5歳刻みだとちょっと多過ぎる気もしますし、とはいえ、やっぱり65歳というような数値は必要かもしれないですね。ちょっと検討させていただきます。ありがとうございます。

ほかに御質問、御意見ございますか。

また振り返って議論する時間がございますので、議事の2番のスケジュールのほうをいつでも説明をお願いしたいと思います。事務局お願いします。

#### ○事務局(池田)

#### 事務局説明【資料4】

議事の2番目の小城市協働によるまちづくり推進事業、今後のスケジュールについて御説明をしたいと思います。

資料番号は4番のほうになります。1枚のプリントですね、カラーの分になりますけれども。よろしいでしょうか。

こちらのほうに、緑色が検討委員会、オレンジの部分が市民の皆さん、紫の部分が小城市ということで、分けて記載をしております。検討委員会設置要綱に基づいて、今回の検討委員会、第1回目を本日、実施をしております。小城市の現状と課題であったりとか、今後のスケジュール、市民アンケート等について話をさせていただいております。

アンケートを実施するというお話しておりますが、1月の下旬から2月の下旬にかけてアンケートの実施を予定しております。こちらのほうは、先ほど説明をしましたように、市民の方を対象にしておりますけれども、今後、来年度以降、地縁団体、自治会とかPTA、消防団、婦人会等、各種団体についてのアンケートも実施を予定しておりますので、御協力のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

2月の上旬に第2回の検討委員会ということで、先進地視察研修を予定しております。まだどういったものがあるのかというのが漠然としてわかりにくい部分があると思いますので、佐賀市のまちづくり協議会のほうに視察を予定しております。川上校区のまちづくり協議会と金立まちづくり協議会のほうに視察研修を2月の上旬に予定しております。

3月の下旬に、市民アンケートの速報が出るかと思っておりますので、その速報についても含めて、第3回の検討委員会を実施したいと思っております。

27年度に入りますけれども、27年度は検討委員会を6回予定しております。その中の1回は、今回は佐賀市のほうに見学に行かせていただきますけれども、福岡の先進地のほうに研修に行きたいと思っております。

それで、27年度中にある程度の方向性、小城市に合ったまちづくりはこういった形じゃないだろうかという方向性を示していただいて、28年度以降、地域モデル事業として幾つかのモデル地区についてモデル事業を実施していただければと思っております。

その中でも、28年、29年と検討委員会の中で、このモデル事業について検証をしながら、29年度中に、この検討委員会のほうから小城市のほうへ提言をいただきたいと思っております。こちらのほうが検討委員会、市民レベルでの今後のスケジュールですけれども、小城市役所の庁内でも推進本部、地域との協働体制の検討委員会のほうで、検討委員会の内容等を受けて、協議をしていきたいと思っております。

今後のスケジュールについては、以上です。

## ○五十嵐委員長

皆さん驚かれたと思いますが、この委員会の私どもの委員の任期は、実は28年3月までですが、この委員会は29年度まで続くという、普通、この種の委員会というのは長くても1年ですけれども、それでは済まない、それほどまでに重要かつ簡単にはまとまらない委員会と、そういう難しい委員会であるということは何となくイメージできたのではないかと思います。つまり、まとめていく段階で課題の洗い出しをするために、私たち自身が先進的な事業を学ばなければいけません。あるいは、ある程度これは実験と言ったら地域に失礼になるんですけども、ある地域、小城市内のある地域でいろんな実践をしていただいて、その経験、それも踏まえて、この委員会に反映させると。何がよかったのか、何がうまくいかなかったのか、そういった市内で行われているさまざまなまちづくりの事例の実際のデータ、そういったものも、この委員会に反映させて、最終的な取りまとめを行うということで、非常に時間

のかかる委員会になっているということでございます。御理解いただけましたでしょうか。

時間がかかると、当然短期で終われば、スピード感は当然必要なんでしょうけれども、まちづくりそのものというのは、なかなか簡単に成果が目に見えるようなものが出るわけでは当然ございません。地道な試み、活動、そういったものの実績ですから、そういったものも踏まえた上での検討ということになるだろうと思います。

このスケジュールについては、何か御質問、御意見ございますか。どうぞ、古川委員さん。

#### ○古川委員

佐賀県NPO法人CSO推進機構の古川久美子と申します。

私は佐賀市内に住んでおりまして、このハンドブックを見たときに、うちが住んでいる地区もモデル、小城がまさしくモデル事業としてされたいことがうちの地区でもなされていて、うちの母が敬老会の役をやっているので、ワークショップに参加していろいろそういう母とディスカッションしたことがあるんですが、今、多分ここにいらっしゃる方はイメージが多分つかないかと思うんですね。なので、今ここに集まっているのは、ゆくゆくはモデル事業という各公民館単位であればワークショップをなされていたと思うんですが、公民館単位でワークショップをするための前々前段階の話し合いというか、協議会ということで認識してよろしいんですね。

#### ○五十嵐委員長

はい。

#### ○古川委員

なので、それが多分、イメージ……

#### ○五十嵐委員長

佐賀市のどこのほうですか。

#### ○古川委員

私は西与賀に住んでいて、毎年何回かワークショップをされた様子の写真をはめ込んで、皆さんで話している様子というのは全戸配布をされてありましたので、イメージがつくのは、このパンフレットを見たら、行く行くはこういうことを各地区でモデル事業でやりたいんだというのを御説明していただければ、すごくわかりやすいかなと思いました。

#### ○五十嵐委員長

あくまでも佐賀市のやり方です。佐賀市と同じようなことをやるかどうかが決まっている

わけではなくて、今、ゼロのスタートです。もちろん佐賀市のやり方もございますし、ほかの市、自治体のやり方もございますから、いろんな地域、事例、そういったものも参考にしながら、小城市ならではのものをつくっていくという前提でございます。

ワークショップという言葉がございましたけれども、実際にまちづくりを進めていく中で、いろんな人たちが集まってワークショップ形式で合意形成を図るようなまちづくりの進め方、そういったものを佐賀市が積極的にやっているという紹介でございました。

ほかに何でも結構です、せっかくお集まりですから、時間が許す限り各団体の現状なり何か、課題まで言う必要はないと思いますけれども、御紹介いただくとありがたいなと思います。

全ての団体にお話しいただくとあっという間に1時間、2時間かかってしまいますので、私がちょっと指名するのは申しわけないですけれども、例えば、公民館はまちづくりの中ではいわゆる社会教育の範疇に入る活動です。公民館の分館長さんがおられますので、公民館活動として今どんな課題を抱えているのだとか、そんなことについて御紹介いただけますでしょうか。簡単で結構ですが。突然で申しわけございません。

#### ○原口委員

分館長会の原口です。牛津の分館長の会長をことし4月から拝命いたしまして、取り組みかれこれというのはやっておりますけれども、どちらかといえば、自主的な活動というのじゃなくて、一応牛津の公民館のほうからの要請といいますかね、そういった格好での活動が大体メイン。ただ、行政区での分館長としての活動というのは、執行部、それから育成会、婦人会、老人会というのでパトロール並びに、老人会の方はパトロールというのはちょっと大変だと思いますので、子供たちが夕方帰るころの時間を見計らって、車の通行量の多い交差点で一応交通立番というのをお願いしております。追記としては、うちの区長、いつも言いますが、安全安心というのをまず心がけるということで、以前は結構交通事故が多かった地域ではあるんですけども、今は大分もうほとんど減っております、その辺のパトロールかれこれというのもある程度効果があるんじゃないかならうかと思っております。大体そういう活動です。

#### ○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。今、安全安心のお話がございましたので、消防団、秋丸さん、全国的に消防団の団員数が減っていて、なかなか厳しい状況かと思いますが、小城の消



防団として抱えている課題とか問題ございましたらお話しいただけますか。

#### ○秋丸委員

課題って、先ほど委員長さんがおっしゃられたとおり、これはもう今始まったことではなかですもんね。やっぱり少子高齢化になって、子供がおらんけんが、それがずっと太うなっていくけんが。そして、先はゼロじゃなかですけど、そういう考えを持って、統廃合の問題とか、何かいろいろ別な意味でまた課題が多うなって、牛津の体協も仰せつかっておりますが、体協のメインである一番最後の12区対抗リレーというのがですよ、子供がおらんけんが、もう選手がおらんわけですよ。太うなあぎ太うなるほど、誰ば出すかて、統合すっぎ。そういう問題でこのごろは話しはしましたけど一、これの一番初めのところの人口問題のどがん人口を増やすかとなれば、やっぱり我々がちょっと来んこーというわけいかんけんが、企業を持ってきて、住民の方が家をつくったりなんたり、やっぱりそうして人口を増やさんことには、一般的にじゃない、一口に人口をふやさんぎいかんやっかどうのこうのと言うてでんが、これはちょっと難しかけんがですね、その辺はやっぱり市の——もうおらっさんばってんが、市長さんどんと話をしながら、やっぱりバックアップじゃなかばってん、誘致を、工場を持ってきて、それで人口を増やして。

#### ○五十嵐委員長

人口増加策については、この後、それぞれの校区単位での地域づくりの中で、うちの校区はもっと人口をふやさんばいかんぞというような結論になったら、それぞれ考えていただいて、市と連携してやっていくというようなことになっていくだろうと思います。

済みません、あれですかね、各自治会単位とか校区単位で安全安心の防災マップづくりとかはやっているんですかね。

#### ○木下委員

小学校にあります。

#### ○五十嵐委員長

小学校にもうあるわけですね。

#### ○原口委員

うちは町内会でつくりました。

#### ○五十嵐委員長

町内会でつくられたですか。

## ○原委員

社会福祉協議会ですけれども、社会福祉協議会のほうでもマップづくりということ、実際には地域づくりということで始めているんですが、今、十数地区ぐらいにマップをつくって、全戸配布という形でさせていただいています。

## ○五十嵐委員長

佐賀県の中でも旧牛津を含めて、水害の多い地域というふうに私も理解しておりますので、恐らく水害に対する防災意識はかなり高いと思います。一方で、消防団の担い手が減っていく中で、どうやって自分たちの防災体制をつくっていくのか、そういったものは安全安心にかかわる活動を超えて、いろんなところに広がりを持ってきますから、当然いろんな団体の連携なしではやっていけない。そういったことをこのまちづくりの協議会の中で一つの提言とか提案をしていくようなことが必要だろうと思っています。

老人クラブさん、いかがでしょうか。

## ○横山委員

老人クラブも組織の面からいきますというと、減少傾向、漸減現象がずっと続いているんですね。ですから、今はとにかく活動の基盤を強化しなければいけないという点からは、会員を拡大しようと、こういうことですが、なかなか来ない。その理由は、私は段階的に意識の程度を見てみますというと、無関心の方は、例えば、老人クラブに入ってくれ、老人クラブというのはどんなクラブだとかという、そういう無関心な方はもう加入しないですね。無関心じゃなくても、関心はあってもまだ無責任な言動をする人はいることはいるですね。そのうちに入りますよと、こういうように言った人が参加したという事例は私はいまだかつて見たことないですけれども、無責任な言動もだめですね。やっぱり抽象的でもいいですから、老人クラブというのは地域のために頑張っているですね。じゃ、私も賛成しますよ。ただ、加入するかどうかは別にして、そこまでいけば、大体勧誘すれば加入してくれる。その上は具体的なスローガンに賛成してもらって、そして、活動にも参加してもらって、最後は総合的な活動に持っていけないといけない、それは連携だと思っているんですね。今の現状は、残念ながら無関心層、それから関心はあっても無責任な言動をする人が多過ぎるから老人クラブの会員が少ないのじゃないだろうかと、こういうふうに思っているんです。

## ○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。全国的な共通する課題で、高齢者はふえているのに老人ク

ラブの加入率が減っているという、こういう問題がございまして、それはほかの団体でもそうなんですけれども、その状況をそのまま多分放置するわけにはいなくて、かなり大きな改善のための提言が必要になるだろうと思います。

年齢別のまとまり、性別のまとまり、これ従来からよくあるコミュニティの集まりなんです、それとは違うのがいわゆる志で集まったメンバーです。これがNPOという組織形態なものなんです、きょうNPOの方もたくさんおられて、私の勉強の意味でも、どんな活動をされているのか、ちょっと御紹介いただきたいんですが、牛津のまちづくり協議会、大坪さんお願いします。活動の内容でも抱えている課題でも結構です。

### ○大坪委員

牛津まちづくり協議会は2年ほど前に発足しました。そもそもは先ほど原が説明しましたけど、福祉の領域から私入っているんですよ。先ほど言われた防災とか、福祉の安徳さんが言われた地域包括ケアとか認知症の問題とか。180行政区ありますけど、地域に介入しても住民さんと共通理解できないもので、マップから介入すると、マップが防災のほうにいつてしまうんですね。本来の福祉課題とか対象者の支援とかいう形で協議ができないもので、それで、やはり一つの行政区で解決できないいろんな人口問題、担い手の問題。そしたらやっぱり自治会との連携が必要ねと。民生委員さん、自治会。それと、一番難しいのは区長さんの連携が一番難しい。そして、ある程度緩やかなまとまりが必要じゃないだろうかということで、牛津の諸団体、結構まとまりありますので、子供を中心にして、その中で子供と高齢者、住民と何か連携ができないかなということをして2年前から発足したのが実情です。その中に牛津町の定住促進と地域活性、いろんな課題がありますので、その中を今後課題整理をしていかんばいかなかなとは思っております。

以上です。

### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。牛津のまちづくり協議会の活動が、ある意味この委員会がイメージするかもしれないまちづくりの一つのやり方というように印象を私は持っています。ありがとうございます。

次、つなぎレンガ座さん、済みません、活動の内容、どんなことがありますかね。

### ○中島委員

つなぎレンガ座の中島といいます。

私のほうも通常の仕事に関しましては、地域の保健福祉センターという公共の施設を管理させてもらっております。その問題と、今回、私が去年の4月にこのNPOのまちづくり団体を設立しまして、まだまだ赤ちゃんのようなまちづくりの団体ではありますが、その保健福祉センターのほうでいろんな諸問題のほうを一般住民さんのほうが投げかけられていることも往々にしてよくあるわけなんですよ。そういったことも踏まえて、近所づき合い等々あわせてもそうなんです、大人と子供の関係とかいうのも我々が小さかった子供のころとは全然違うつながりになって、ちょっと声をかけただけで声かけになったりとか、こういう田舎の地域であってもちよっとおかしな現象が起きているというのから、こういったまちづくり団体を立ち上げて、いろんな意味でもう少し面識を、新しく来た人も昔からいる人も、まちおこしをして、面識を持って、顔つなぎをとりあえずどンドンどンドンやっていくことが最善点ではないのかなという形で、今、NPOのいろんな、毎月まではいきませんが、いろんなイベント等、いろんなセッション等をさせてもらっている次第です。

大きな問題等々を一つずつできること、身丈に合った解決方法ですね、そういうまちづくり団体に解決できないことは行政に御相談ももちろんしなくちゃいけないし、その辺のいく方向性を教えてやるのもまちづくり団体の一つの大きな役割ではないかと思います。そういう団体のいろんな足がかりになる活動をしております。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。放課後児童クラブの石橋さん、お願いいたします。

#### ○石橋委員

NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会の石橋です。

県内に約210カ所ある学童保育の支援をするという佐賀県学童保育支援センターの受託をして、県内隅々の児童クラブに足を向けています。多分日本中どこでもないと思うんですが、学童保育とまちづくりというのを私はすごく考えていて、今年は実際に小城のPTAの皆さんと組んで、たくさんのワークショップをする中にこの人口問題をどンドン入れていきました。このまちづくり協議会もそうなんです、やっぱり若手が入っていない。それとあと、子育て世代のママたちの声が入らないということが私はどこのまちづくりに行ってもそこは課題だと思っていて、実際、私はみやき町に住んでいるんですが、庁舎の中で子育て・子育て・まち育ちという、子育てとまち育ちを始めてつけたものも運営をしています。私はここで、この地域自治組織がまちづくりの協議をずっとしていくというのは、すごく壮大なこと

をここでやることにひしひしと責任の大きさを感じています。小城市の大きな骨格というか、本当にこのまま住み続けられるのかそうでないかというまちづくりにかかわらせていただくということで、すごくどきどきもしますけど、わくわくもしています。なぜなら学童保育というのは非常に可能性があるからです。場所と人がいます。そこに子供がたくさんいます。そこには若い世代の親がいて、この人たちがまちづくりにかかわれるかどうかというのは小城市の大きな柱になると思っていまして、その児童クラブの指導員さんたちを実は私たちが雇用しているということで、何か大きな役割を果たせるような学童保育の側からのアプローチをさせていただけたらなと思っています。

以上です。

### ○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。いろんなNPOがあつて、そういったNPOを支援するような立場でもあるCSOという機構がございまして、そのメンバーでもあつて、小城でも活動されている古川さん、お願いします。

### ○古川委員

NPO法人佐賀県CSO推進機構の古川と申します。

そうですね、全体のCSO、佐賀県いっぱいのCSO活動をされてある方たちの全体で言えば、うちはいろんな情報を国の補助金ですとか市の補助金ですとか、企業のCSR活動ということで、いろんな情報がうちの団体のほうに入ってきます。そういう団体さんにこういうのが出ましたよとってお知らせして、いろんな活動をされてある方々へ御紹介するとか、そういった活動をやっております。うち5カ所、あちこちあるんですけども、その中で、小城としては深川家というところに入らせていただいて、まちづくりを拠点にやっております。そこも地域資源であった深川家というものを要はにぎわいという点で入らせていただいて、あそこにながらいろんな地域の課題というのが見えてきますので、地域の見えてきた課題を私はあそこにて、補助金、文化庁ですとかJT財団ですとか、そういうところに申請を出しまして、それで今、地域の方々と一緒にやっています。去年は文化庁のほうに申請を出して、観光ボランティアガイドの方たちと一緒に活動を——2016年に小城祇園祭があるということで、観光ボランティアガイドの方のレベルアップをしていただこうと思って勉強をしました。今年度はJT財団というところを通りまして、JT財団からいただいて、今、桜岡小学校の校長先生来ていただいているんですけども、桜岡小学校の子供たちと一緒に、

今、総合学習の授業を使って2016年に向けて小城祇園、あそこの須賀神社周辺のマップづくりを子供たちと歴史を勉強しながらマップをつくるという、子供からお年寄りまでいろんな、本当に地域の課題が、ここちょっと足りないとか、これをもうちょっとプラスしたら物すごくいい循環ができるのになという点で少しずつ動いている状況です。

### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。私、佐賀市のほうでこの種の委員会の委員長職を四、五年やったんですけど、やるたびにみんな役員になり手がいないだとか、リーダーがいないだとか、いろんなことがない、いない、いない尽くしなんですけど、実際にいろんな団体の人が集まって、こういうテーブルをつくってみると、実はいるんですよ。ただ、そういった人たちとつながりがないとか、知り合う機会がないだとか、それはあくまでも自分たちの活動に頑張り過ぎた点もあろうかと思いますが、よその活動団体とちょっと連携してみるだとか、よその活動団体と相談するだとか、そういった機会をつくっていくと、実は人はいるんですよ。だから、コミュニティ活動というのは決して停滞するんじゃないくて、まだまだ僕は元気になれると思っています。どこにどんな人がいるんだとか、こういった人たちと手をつないだらもっとおもしろいことができるんだとか、そういった可能性みたいなものが見えてくれば、この委員会として一つの大きな弾みになるのかなと、そんな印象を私、今の段階でも既に持ちました。CSO、NPOの方々に入っていていただいて非常にありがたいと思います。

御指摘のように、本当であれば20代とか30代の若い人たちにこの場に来てほしいんですよ。ところが、平日の昼間に会議をやりますから、平日の昼間にここに出てこられる若い人がいたらおかしいわけです。ですから、ここに平日の昼間来られるのは、それなりの団体の長の方々に集まっていただくことになりますから、おのずとちょっと平均年齢が上がってしまうということだけは御了解いただいて、その分それぞれの代表の母体のほうに帰っていただいて、若い方々の意見を吸い上げてきていただきたい、そのように思います。

済みません、私だけ話して。公募委員の光石さん、ここまで話聞かれていかがでしょうか。自己紹介も含めて何かお願いしたいと思います。

### ○光石委員

今日突然ここに伺って、まちづくりという意味がよくわかっていなかったなど。もっと小さく考えておったんですけど、ここにいらっしゃる構成メンバーの方々を考えまして、非常に重要な項目を話されているなと思いました。まさに今、政府が言っているような、今後は

少子高齢化時代で、自助、共助、公助ですか、2015年、来年には、さっき西九州大学の安徳先生がおっしゃったように、地域包括ケアシステム、それから地域包括支援センター、法律の改正もあるし、まさにまちづくりが、ここで新しいまちづくりをつくっていかないと、少子高齢化を乗り切れないじゃないかなと。その施策としてが、この協働によるまちづくりじゃないかなと思っております。

その中で、ちょっとこれ質問ですけど、さっきアンケート調査は今後の活動の指針とされるわけですかね。そしたら、統計学は私もちょっとしかかじっていないんですけど、調査方法とか調査項目というのは、専門家の人なんかとも協議されているのかなと思ったんですね。项目的にも少ないし、さっき言われていた年齢とか、世代とか、地域とか、職業とか、家族とか、指針にするにはいろんな項目がちょっと少ないんじゃないかなと。統計資料として役立てさせるには、もっと項目が多くないといかんのかな。そして、このアンケート調査の調査目的、目的は書いてありますけど、実際の何を引き出して、何を今後の活動に利用するか。その目的は何だろうかと思ったんですけど。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。私、統計学の専門ではないんですが、事務局案を私が一応チェックはいたしました。実は、事務局案はもっと質問項目多かったんですが、私は、70歳のおばあちゃんでもちゃんと答えられると、10代の人でも答えてくれると、いわば回収率を上げるということを最優先しまして、あえて項目を減らしました。この項目の内容でいいのか、まだ若干検討の余地がございますので、この場で御意見はなかなか出ないと思いますから、このアンケート項目について、お読みいただいて、もしつけ加える点、あるいは修正すべき点等がございましたら、正月一杯飲みながら見ていただいて、年明けの5日か6日ぐらいまでに、事務局のほうに御意見がございましたら御連絡いただけますか、いいですか。

#### ○事務局(池田)

はい。

#### ○五十嵐委員長

いいですか、大丈夫ね。正月明けでもいいですよ。

#### ○事務局(池田)

正月明け、6日ぐらいまでに。

#### ○五十嵐委員長

ええ、1月6日くらいまでに、このアンケート項目の内容について御意見ございましたら連絡をお願いします。メールでも、ファクスでも、電話でも結構ですので、よろしく願います。5日から御用始め。

**○事務局(池田)**

はい。

**○五十嵐委員長**

そうですね。だから、5日、6日あたりをお願いしたいと思います。

ほかにございますでしょうか。はい、どうぞ。

**○眞子委員**

民生委員の眞子ですけれども、この地域の組織、まちづくり協議会のイメージというところがありますが、その中で、各種の団体というのがありますよね。今日はその団体の中でも、老人会、婦人会お見えですけれども、この方々が、本当、地域で一番密接に関係があるところなんですね。ですけれども、おいでになって失礼ですけれども、団体といいながらもほんの一部しかないと。私の地域でもそう、婦人会に加入している方、老人クラブに加入している方は一人もいないと。そうすると、一番密接にどんどんそういう方が多くなっているにもかかわらずないということは、非常に今後の課題だろうと思っているんです。ですから、これは、これと並行して進めていくべきじゃないかなと思っています。

**○五十嵐委員長**

恐らく地元のことについて、ある程度全体的に把握されておるのはやっぱり自治会だろうと思います。全ての自治会長さんあたりには、個別にヒアリング等を行うことも想定しています。もちろん自治会に限らず、婦人会を初めいろんな団体の代表の方々、あるいは過去の役員さん、そういった方々に、必要であればヒアリング等を行って情報の収集を行うつもりでございます。そういう経過だったですよ、いいですよ、事務局。

**○事務局(池田)**

はい。

**○五十嵐委員長**

驚いていないよね、大丈夫、やりますよね、いいですね。

**○事務局(池田)**

はい。



### ○五十嵐委員長

貴重な意見、ありがとうございます。婦人会、組織率やっぱり下がっていますか。

### ○山田委員

やっぱり若い人の会員さんがなかなかですね。年とってきたら老人会のほうに入るから、自分たちどうしても、もうどこの会員さんもそうなんですけど、会員不足ということが……

### ○眞子委員

その老人会がなかとやけん。

### ○山田委員

その老人会もだんだんと入れないと。

### ○秋丸委員

老人会も、あんまいごちゃあの強かけん入らんとやなか。違うかにゃ。そがん傾向もなかとかな。

### ○眞子委員

いや、以前は、みんなあつたんです。ところが、ずっと世代交代してきて、会長になるとか、そこになってくるともう分裂していくんですね。

### ○五十嵐委員長

従来からの組織は、やはり伝統的に共通する課題があります。役員のみなり手がないとか、役員が順番で回ってきて、民主的な決め方をしていないとか、当然いろんな問題があります。そういった問題は、この場では全部出します。タブーはしません。ここの委員会では、自由に御意見を出していただきますから、どうぞ今抱えている問題を正直に出していただいて結構です。そういったものを踏まえて、少しでも改善できるような仕組みをこの委員会で提言としてまとめていくことになりますから、タブーはございません。どうぞ安心して発言してください。個人を中傷するようなことがあったら私がとめますから、それ以外は大丈夫ですから、何を言っても構いません。

予定では4時までの予定なんですけど、何かほかに、この際、御意見がある方はおられませんか。はい、どうぞ。

### ○木下委員

実際モデル地区というんですが、学区で動くの。学区制で動く、どうなる、そこら辺は地域ということで、どういう地域ですかね。

### ○五十嵐委員長

いいですか、まだ具体的などの単位でのモデルにするかというのは決めてはいませんが、大きな流れとしては、校区単位が大きな流れとしてございます。先ほど言われましたように、やっぱり子供、小学校というのがやっぱり一つのいろんな活動の縮図みたいなのが、やっぱり小学校区単位でやるとやりやすいということもございまして……

### ○木下委員

校区イコール学区ですもんね、今、小城は。それでいいですね。

### ○五十嵐委員長

はい、今想定している一つとしてですよ、あくまでも。それで決めたわけではございません。

ほかにございせんか。何でも結構ですが。はい、どうぞ。

### ○大野委員

私、小中学校の校長会を代表して来ています大野ですが、今言われた小城市は8つの小学校区があります。中学校が4つになるわけですが、学校としては、小城市の教育委員会が目指す「城創伝心」というのは、各学校、地域の伝統や文化を受け継いで新しいものをつくり出すという子供を育てていくわけですが、地域が盛り上がれば学校が盛り上がる、学校が盛り上がれば地域が盛り上がる、本当に相乗的なものだと考えています。

子供は少なくなってきましたけれども、やはり小城で生まれて育ってよかった、最終的にはまた帰ってきてここで頑張るぞというような子供が育ってくればいいわけで、どこの学校も、恐らく地域のそれぞれのここにこられている方の団体と連携をしながら教育をしていくだろうと思っています。

そういう意味では、やっぱりこのまちづくり、コミュニティというのは、我々も子供たちに一番大事にしているコミュニケーションの能力を培うには、やっぱりつながるしかないと思っています。いろんな方々の団体のお話を聞きながら、また、本校で——代表ですけれども、我が学校では、さっき古川委員さんが言われたように、小城市の700年という大きな歴史を持っているその行事を生かしながら子供たちにそれをまた学ばせていくというようなところを、各学校長が恐らくやっていると思いますので、今後、このまちづくりがそれぞれ盛り上がってくることが、学校も盛り上がるし、子供たちにも影響するというところで本当に期待をしていますし、どうぞこちらもよろしくお願ひしたいと思っています。

### ○五十嵐委員長

どうもありがとうございます。ほかにございませんか。はい、どうぞ。

### ○安徳委員

西九州大学の安徳です。

アンケートのことなのですが、これは今回、課題を見つけるということの足がかりになったりということで、大事なアンケート調査だと思うのですが、その回収法が、郵送法ということで投函するということになっています。先ほどちょっとおっしゃってあったのが、回収率は50%ぐらいが大体市民からのということでおっしゃってあったのですが、実際に活動ができないとか、関心がないという人こそポストに投函しないと思うんですね。ですから、このような調査というのは、やっぱり100%の回収を目指さないといけないと思うんですね。そういったときに、果たして郵送法でいいのかというところが、私ちょっと心配するところなのですね。関心があるとか参加しているというデータばかり集まってしまうと、本当の課題というのは抽出できないんじゃないかなというふうに思うので、回収の方法、あり方を少し検討する必要があるのかなと思いました。

### ○五十嵐委員長

事務局、案ありますか。回収率を高める方法。要は、どこまで客観的な結果を集めるかというのがアンケートの最大限の基本で、方法として無作為抽出でやると。郵便で送ってもらうやり方をとるわけですが、例えば、それを自治会長さんに回収してくださいなんていうと、ちょっとやっぱりまた筋が違ってきてしまうと。郵便切手は当然張っておくんでしょう、返信用の封筒には。

### ○事務局(池田)

そうですね、返信用はこちらのほうで払うように郵便局のほうに手続をして、投函すればよいだけという形で実施をしたいと思っています。

それと、指摘があっているんですけども、なかなか市民さん向けのアンケートというのは郵送以外今のところ考えておりません。先ほど言いました各種団体については、団体のほうに御説明にお伺いして、こういった形でアンケートをとる形で手渡しじゃないですけど、実施をしていきたいと思っていますけど、市民のアンケートについてはちょっと難しいところがあるかと思います。

### ○五十嵐委員長

今、御指摘のように、本当に関心がない人はアンケートにも答えないと。あるいは、当然返送もないと。だから、回収率が非常に低かったというのは、関心がない人が多いのだということのあかしでもありますから、それはそれで考慮するという前提で、とりあえず市民アンケートについては郵送での回収ということではかせていただきます。

きめ細かな情報収集のために、先ほど言いましたように各種団体等へのヒアリングなりアンケートを別途、実施をさせていただきます。

**○木下委員**

アンケートのやり方にもいろいろありまして、答えた人には図書券をやるとかいう方法もあるんですね、予算があれば。そこら辺も活用しながら、利用されたらいいと思いますけど。

**○五十嵐委員長**

何かプレゼントはつけられますか。

**○木下委員**

ないですか、予算が。

**○事務局(池田)**

はい、そうですね。ちょっと今のところ、計画はしておりません。

**○五十嵐委員長**

はい、済みません、それでは進めさせていただきます。

ほかによろしいでしょうか、この際——今後の委員会の進め方について、何か御意見、御希望ございますか。大体、隔月に1回ぐらいのペースかな、来年度も。

**○事務局(池田)**

そうですね。来年度は6回考えておりますので。

**○五十嵐委員長**

来年度は年6回ですが、隔月1回ぐらいの開催の頻度でやるというふうに大体御承知おきください。多いですか。

**○木下委員**

多いな。

**○五十嵐委員長**

従来、市等が設置した委員会では、恐らく例のない、前例のない委員会になろうかと思っておりますので。

**○木下委員**

アンケートが、たたき台ができればしやすいですけどね。

**○五十嵐委員長**

どうぞ、この調子で皆さん自由に御発言ください。よろしくお願ひいたします。

それでは、きょうの協議事項は一応これで終了しますので、事務局お返しします。

**○事務局(池田)**

それでは、次第の下のほう書いておりますけれども、今年度の予定を御説明をしたいと思ひます。

第2回目の検討委員会は先進地視察研修ということで、2月2日、月曜日を予定しております。そのときには、佐賀市のまちづくり協議会、川上校区のまちづくり協議会と金立まちづくり協議会の視察のほうを予定をしております。市のバスでいきたいと思ひますので、集合を、13時に市役所の西館の玄関前に集合していただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

それと、第3回目の検討委員会を3月の下旬、20日以降になるかと思ひますけれども、予定をしております。先ほど話が出ておりましたけれども、今回は平日の午後実施をしておりますけれども、土日とか夜間にも実施をできるかと思ひますけれども、いかがでしょうか皆さん、今後もこういった形で平日のお昼間という形でもよろしいでしょうか。

**○川頭委員**

個人的には土日がいいです。全く個人的です。

**○五十嵐委員長**

平日に、どうしても委員会の出席が厳しいという方はおられますか。

**○大坪委員**

できれば2カ月前ぐらいに予定がわかったほうがスケジュールの調整は……

**○五十嵐委員長**

はい、その努力はいたします。

**○事務局(池田)**

そしたら、2カ月前ぐらいに連絡をできるようにしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

それと、2回目の検討委員会なんですけれども、今お知らせをしておりますけれども、別

途通知をお出ししたいと思います。欠席をされる場合は、事前に連絡をお願いしたいと思います。

今年度の予定については以上ですけれども。

#### ○五十嵐委員長

2月2日、先進地——先進地かどうか私は自信がありませんが、一応、佐賀市で取り組んでいるまちづくり協議会ってどんなもんかというようなことを知る事例として、川上——川上は御存じですかね、大和町の川上校区。それと、そこからちょっと東のほうに行った金立校区、この2つを視察をするということで、なるべく多くの方に御参加いただければと思います。

#### ○秋丸委員

これは案内は出されますかね。

#### ○事務局(池田)

案内はお出しします。

#### ○秋丸委員

出さない、すぐ忘れるけんさい。

#### ○事務局(池田)

1月に入って通知を送付しますので、よろしくをお願いします。

本日は活発な御意見をどうもありがとうございました。

## 8. 閉 会

#### ○古賀副市長

皆さん、きょうは大変長時間にわたって、それからお忙しい中にお集まりいただきまして、いろいろ御議論いただきましてありがとうございます。気候の変化もあります。大雨であったり非常に暑かったりですね。それとあわせて、社会の変化も非常に大きくなっています。今日お示ししました小城市の人口も、県内では減少が緩やかなほうだと言われておりますけれども、確実に減ってっております。人口の数や中身、そういったものが大分違ってありますが、地区も180地区ある中で、こういうふうには人口の数や中身がそれぞれ違っております。

そういう中で、それぞれ今まで画一的などとは言いませんが、これくらいで大体お話をまと

められた時期もあったわけですが、なかなかそれからはみ出た部分と申しますか、今の行政のほうも、なかなかそれに対応できていないという部分があります。そういう部分について今日お集まりいただいて、地域を含めた、小城市全体の協働によるまちづくりというふうな施策をこれから取り組んでいくわけですが、これからスケジュールにありますように、非常に長い、先ほど委員長さんのお話があったように、まずはいろんな勉強の時期というのが先にあるということをお話をいただいたんですけれども、大変多岐にわたっている課題がありますので、なかなか大変なものだというふうに私どもも思っております。そういう中で、これからも相当いろんな会合等にも来ていただいたり、視察もお願いしたりしたいというふうに思っておりますので、大変なことでありますけれども、小城市のこれからの方向性というか、そういうものをこの中から、我々もこういうお話の中から見出していきたいというふうに思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げたいと思います。今日はありがとうございました。